

「研修機関が公表する情報の内訳」

令和7年4月作成

研修 機関 情報	法人情報	法人名称・住所等 社会福祉法人ユーカリ優都会 千葉県佐倉市青菅 1010-15 TEL:043-460-7117 代表者名 理事長 嶋田 哲夫	
	研修機関情報	事業所名称・住所等 社会福祉法人ユーカリ優都会 ユーカリが丘国際福祉専門学校 千葉県佐倉市上座 1268-1 TEL:043-312-3559 理念 学校ホームページに掲載 学則 学校ホームページに掲載 研修施設、設備 学校ホームページに掲載	
研修 事業 情報	研修の概要	対象 当校の国際福祉ケア学科に在籍する学生に限ります 研修のスケジュール 学校ホームページに掲載 定員・指導者数 定員 43 名、指導者数 11 名 研修受講までの流れ 学校ホームページに掲載 費用 国際福祉ケア学科の学費内に含まれます 留意事項、特徴、受講者へのメッセージ等 学校ホームページに掲載	
	課程責任者	課程編成責任者名 教務主任 越田 裕亮	
	研修カリキュラム	科目別シラバス、科目別担当教官名、科目別特徴 学校ホームページに記載 科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間 通信教育は行いません 通信課程の教材・指導体制・指導方法・課題 通信教育は行いません	
	修了評価	修了評価の方法、評価者、再履修等の基準 マークシート等を使用した選択問題(出題数 50 問、配点 2 点) 評価者 教務主任 越田 裕亮 不合格者は補修を実施	
	実習施設	無し	

講師情報	名前、略歴、現職、資格 学校ホームページに記載	
実績情報	初年度につき無し	
連絡先等	申し込み・資料請求先 学校ホームページに掲載 法人の苦情対応者名・役職・連絡先 社会福祉法人ユーカリ優都会 総務部長 齋藤 孝志 043-460-7117 事業所の苦情対応者名・役職・連絡先 ユーカリが丘国際福祉専門学校 校長 佐藤 隆志 043-312-3559	

介護職員初任者研修 学則

令和 7 年 4 月作成

1. 学校の沿革と概要

(1) 名称

社会福祉法人ユーカリ優都会 ユーカリが丘国際福祉専門学校

(2) 所在地

〒285-0854 千葉県佐倉市上座 1268-1

TEL 043-312-3559

FAX 043-312-2559

E-mail ywc-info@yutokai.ac.jp

(3) 沿革

超高齢社会の到来により、介護支援を必要とする人の数は飛躍的に増大してきているとともに、少子化・核家族化の進行により、介護施設への入居希望者も増加の一途をたどっている。

一方、介護施設の現場では、介護に関する専門的な知識・技能を有する人材を確保することが緊急の課題となっている。

このような社会情勢のもとで、介護現場が求めている有為な人材を養成し、社会福祉の発展に寄与することを意図として、令和 7 年 4 月社会福祉法人ユーカリ優都会 ユーカリが丘国際福祉専門学校が設立となった。

(4) 概要

法人認可 平成 16 年 5 月 6 日

専門学校認可 令和 7 年 3 月 27 日

学校開校 令和 7 年 4 月 1 日

設置者 社会福祉法人 ユーカリ優都会

理事長 嶋田哲夫

校舎床面積 1,116.97 m²

研修事業担当者 佐藤隆志 越田裕亮

2. 教育方針

(1) 理念

学校設立の教育理念を「創意工夫」「協働」「積極」とし、専門の知識・技能・技術を通じて地域社会及び国際社会に貢献し、福祉に寄与する実践的な人材を育成する。

(2) 目的

本研修は、介護保険法施行令（平成 10 年政令第 412 号。以下「政令」という。）第 3 条第 1 項第 1 号口及び介護保険法施行規則（平成 11 年厚生省令第 36 号。以下「施行規則」

という。)第22条の23に規定する介護職員初任者研修課程及び生活援助従事者研修課程(以下「介護員養成研修」という。)事業について、政令、施行規則、介護保険法施行規則第22条の23第2項に規定する厚生労働大臣が定める基準(平成24年3月2日厚生労働省告示第71号、「介護員養成研修の取扱細則について(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修関係)」(平成24年3月28日付け老振発0328第9号厚生労働省老健局振興課長通知。及び千葉県介護員養成研修事業実施要綱(平成30年12月13日付け。以下「実施要綱」という。)に定めるもののほか、必要な事項を定めるところにより、介護福祉に関する専門的知識及び技能を修得し、職業もしくは实际生活に必要な能力を育成し、社会に貢献する人材の養成を目的とする。

(3) 目標

目的を達成するため、介護福祉に携わる者としての次の「心・知・技・体」の錬成を目指し努力する。

- ① 人間愛に根ざした思いやりをもった「心」
- ② 介護福祉に情熱を注ぎ専門学識を修めさらに探求する「知」
- ③ さまざまな障害の克服に貢献する清新な介護の「技能」
- ④ 勤労を愛し超高齢社会を支える健全な逞しい「体」

3. 研修の名称

介護職員初任者研修

4. 実施課程及び方法

実施課程及び方法等は、次のとおりとする。

課程名	昼夜の別	研修期間	定員	実施方法
介護職員初任者研修	昼間	修学期間内 8ヶ月	43名	通学

5. 受講対象者

本校、国際福祉ケア学科に在籍している学生

6. 研修カリキュラム及び担当講師名

本研修のカリキュラム及び担当講師名は、別表のとおりとする。

7. 研修参加費用

研修授業参加に係る費用はありません。

(カリキュラム内で実施するため)

8. 研修授業修了の認定方法

研修授業修了評価は、全科目の修了時に、択一式の修了試験を実施し、評価をA(90点以上)、B(80~89点以下)、C(70~79点以下)、D(69点以下)とし、C以上を合格、Dは不合格とする。

合否判定で「不合格(D)」となった時の取扱いについては、補習を実施し到達目標に達

するようにする。

9. 研修授業欠席者に対する補講等の取扱い

受講者にすべてのカリキュラムを受講させるため、受講者がやむを得ない事情によってカリキュラムの一部を受講しなかったときは、補講等により同等の知識が得られるようにする。

10. 修了証書等の交付及び再交付について

別表の研修授業カリキュラムに定めた全カリキュラムを修了した者を研修修了者として認定し、「修了証明書」を交付する。

修了証明書等の紛失や、記載内容に変更が生じた場合は、手数料を添えて再交付を申請すること。

11. 授業出欠席確認

授業出欠席確認は、次のとおりとする。

(1) 毎回授業開始時に呼名をおこなう。

12. 学校生活における安全管理、健康管理等に関して次のように対処する。

(1) 事故、急病等の発生時

授業中事故、急病等が発生した時は、すみやかに担当教員に知らせ、その指示に従う。

(2) 地震などの災害発生時

校内では、まず揺れのおさまりを待ち、校内放送及び身近な教職員の指示に従って、特に火気に十分注意して慌てず順序よく避難する。

13. 個人情報の取扱いについて

学校は、事業実施により知り得た個人情報について、正当な理由なく漏らしてはならない。

14. 学校施設、備品の使用・借用について

(1) 施設使用上の注意

① 授業時間以外に施設(教室等)を使用する際は、事前に使用許可を得ること。また、施設使用後は、学生が自ら清掃し復元すること。

② 建物内及び敷地内はすべて禁煙とする。

③ 屑入れの分別使用を徹底するとともに、環境の美化・保全に特に留意すること。

④ 節電を心がけ電気、冷暖房は教室移動・退室時には必ずスイッチを切ること。

(2) コピー機・印刷機の使用について

① コピー機を使用する場合は、教員に申し出ること。個人的に使用の場合は、実費を徴収する。

② 機会にトラブルが発生したときは、すみやかに教員に申し出ること。

(3) ロッカー等の使用について

① 個人用ロッカーを貸与する。

② 鍵は学生が自己管理・保管する。また、ロッカーは施錠し盗難防止に努める。

③ 鍵を紛失・破損した場合は、職員室に届け出て自己負担により弁償する。

(4) 教材・備品の使用について

① 各教科で使用した視聴覚教材・介護用品等は、次回の使用に備えて整理整頓し、所定の位置に返納する。

② 教材・教具を授業以外で使用する場合は事前に申し出て許可を得てから使用する。

③ 破損、使用不可能になった場合には、取扱者が責任をもって職員室に報告し、指示に従うこと。

15. 服装等について

好ましい学習環境を達成するため、服装については以下のことに十分留意する。

(1) 自由ではあるが、礼を失しない学生らしいものにする。

(2) 極度に肌を露出する服装としない。またユニフォームは実習時間のみの着用。

(3) 施設見学、実習オリエンテーションの服装は、その場にふさわしいスーツ。

16. 受講上の留意点

本研修受講に関して、その他以下のことに留意する。

(1) 遺失物（忘れ物・落とし物）について

① 教科書には氏名を必ず記入すること。

② 届けられた遺失物は職員室で預かる（掲示板に品名等を掲示する）。

(2) 構内のごみ捨てについて

① 燃えるゴミ・不燃物（ペットボトル・缶）の分別

② カップ麺・洗ってからゴミ箱へ捨てる（トイレ内の洗面台に流さない）

(3) 各種願い・届けについての用紙・様式については、その都度職員室に尋ねること。

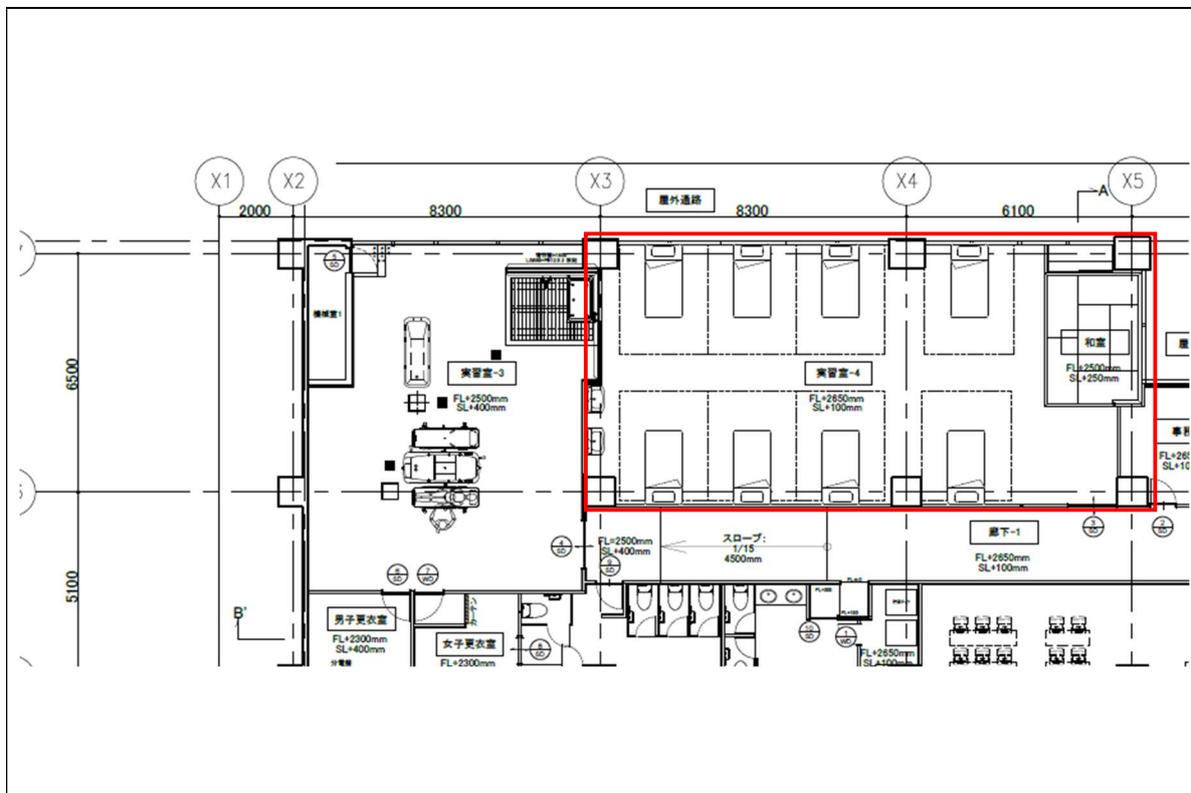
17. その他

本学則施行に際し必要な事項は、理事長が別に定める。

附則

1 この学則は、令和7年6月1日から施行する。

演習会場見取図



部屋面積	100.87 m ²	1 回当りの研修人数	43 名	一人当たりの面積 (1.65 m ² 以上)	2.34 m ²
会場配備の介護機具等一覧 (消耗品は除く)	<p>使用備品等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浴槽 2 台 (内のり：縦 685 mm × 横 1730 mm × 高さ 950 mm) ※1 台以上必要 <p>※おおむね 6 人ごとに 1 台以上必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護用ベッド、ギャッジベッド (8 台) ・車椅子 (手動 9 台、電動 0 台) ・排泄用具 (ポータブルトイレ 8 台、特殊尿器 16 台、便器 40 個) <p>※定員分必要 ・机 50 台 ・椅子 50 脚</p> <p>(その他)</p>				

※見取り図には、全体に縦 (mm) × 横 (mm) のスケールを入れ、ギャッジベッド、浴槽、車椅子等の大型介護器材については、その配置が分かるように記載すること。

別紙1 (介護職員初任者研修課程)

研 修 計 画

(第1回 令和7年6月19日～令和8年1月23日)

- 1 研修を年2回以上実施する場合は、別々に作成すること。
- 2 時間割表を添付すること。なお、研修の「1時間」は60分間、「0.5時間」は30分間であること(1コマ50分授業制の場合、6コマで「5時間」となる)。
- 3 概ね1.5時間に10分以上の休憩を設けること(休憩時間は、講義・演習時間数に含めない)。
- 4 通信制の場合は、面接指導、科目別レポートの提出期日等を記載すること。
- 5 科目数に合わせ枠を増やして作成すること。

講義・演習

項目	時間数	日 時	講師名等
1-1 多様なサービスの理解	3	6月19日(木) 9:00～12:10	(所属)ユーカーが丘国際福祉 専門学校 (氏名)越田 裕亮
1-2 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	6月20日(金) 9:00～12:10	(所属)ユーカーが丘国際福祉 専門学校 (氏名)越田 裕亮
2-1 人権と尊厳を支える介護	4.5	6月26日(木) 9:00～12:10 7月3日(木) 9:00～10:30	(所属)介護老人保健施設ユ ーカー優都苑 (氏名)籠谷 智博
2-2 自立に向けた介護	4.5	7月3日(木) 10:40～12:10 7月10日(木) 9:00～12:10 7月17日(木) 9:00～10:30	(所属)介護老人保健施設ユ ーカー優都苑 (氏名)籠谷 智博
3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携	3	6月23日(月) 9:00～12:10	(所属)介護老人保健施設リハ ビリケア船橋 (氏名)水口 泰輔
3-2 介護職の職業倫理	1.5	6月30日(月) 9:00～10:30	(所属)介護老人保健施設リハ ビリケア船橋 (氏名)水口 泰輔
3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	6月30日(月) 10:40～12:10 7月7日(月) 9:00～10:30	(所属)介護老人保健施設リハ ビリケア船橋 (氏名)水口 泰輔

3-4 介護職の安全	1.5	7月7日(月) 10:40～12:10	(所属)介護老人保健施設リハビリケア船橋 (氏名)水口 泰輔
4-1 介護保険制度	4.5	11月6日(木) 9:00～12:10 11月13日(木) 9:00～10:30	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)越田 裕亮
4-2 医療との連携とリハビリテーション	1.5	7月17日(木) 10:40～12:10	(所属)住宅支援センターリハビリガーデンユーカリが丘 (氏名)石田 修治
4-3 障害福祉制度及びその他制度	4.5	11月13日(木) 10:40～12:10 11月20日(木) 9:00～12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)越田 裕亮
5-1 介護におけるコミュニケーション	4.5	6月24日(火) 9:00～12:10 7月1日(火) 9:00～10:30	(所属)介護老人保健施設ユーカリ優都苑 (氏名)眞籠 裕大
5-2 介護におけるチームのコミュニケーション	4.5	7月1日(火) 10:40～12:10 7月8日(火) 9:00～12:10	(所属)介護老人保健施設ユーカリ優都苑 (氏名)眞籠 裕大

項目	時間数	日時	講師名等
6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常	6	6月27日(金) 9:00～12:10 7月4日(金) 9:00～12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)澤村 恵子
6-2 高齢者と健康	6	7月11日(金) 9:00～12:10 7月18日(金) 9:00～12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)澤村 恵子
7-1 認知症を取り巻く状況	1.5	7月15日(火) 9:00～10:30	(所属)介護老人保健施設ユーカリ優都苑 (氏名)眞籠 裕大
7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	4.5	7月25日(金) 9:00～12:10 9月5日(金) 9:00～10:30	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)澤村 恵子
7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	3	7月15日(火) 10:40～12:10 7月22日(火)	(所属)介護老人保健施設ユーカリ優都苑 (氏名)眞籠 裕大

		9:00 ~ 10:30	
7-4 家族への支援	1.5	7月22日(火) 10:40 ~ 12:10	(所属)介護老人保健施設ユ ーカリ優都苑 (氏名)眞籠 裕大
8-1 障害の基礎的理解	4.5	9月5日(金) 10:40 ~ 12:10 9月12日(金) 9:00 ~ 12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉 専門学校 (氏名)澤村 恵子
8-2 障害の医学的側面、生活障 害、心理・行動の特徴、かかわ り支援等の基礎的知識	4.5	9月19日(金) 9:00 ~ 12:10 10月3日(金) 9:00 ~ 12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉 専門学校 (氏名)澤村 恵子
8-3 家族の心理、かかわり支援 の理解	4.5	10月3日(金) 10:40 ~ 12:10 10月10日(金) 9:00 ~ 12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉 専門学校 (氏名)澤村 恵子
9-1 介護の基本的な考え方	3	7月24日(木) 9:00 ~ 12:10	(所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)大澤 美穂
9-2 介護に関するところのしくみ の基礎的理解	6	7月31日(木) 9:00 ~ 12:10 9月4日(木) 9:00 ~ 12:10	(所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)大澤 美穂
9-3 介護に関するからだのしくみ の基礎的理解	6	9月11日(木) 9:00 ~ 12:10 10月17日(金) 9:00 ~ 12:10	(所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)大澤 美穂
9-4 生活と家事	6	10月24日(金) 9:00 ~ 12:10 10月31日(金) 9:00 ~ 12:10	(所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)大澤 美穂
9-5 快適な居住環境整備と介護	6	10月31日(金) 9:00 ~ 12:10 11月7日(金) 9:00 ~ 12:10	(所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)大澤 美穂
9-6 整容に関連したところとから だのしくみと自立に向けた介護	12	10月7日(火) 9:00 ~ 12:10 10月14日(火) 9:00 ~ 12:10 10月21日(火) 9:00 ~ 12:10 10月28日(火) 9:00 ~ 12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉 専門学校 (氏名)伊東 洋詩

9-7 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	7月29日(火) 9:00～12:10 9月2日(火) 9:00～12:10 9月9日(火) 9:00～12:10 9月16日(火) 9:00～12:10	(所属)介護老人保健施設ユ ーカリ優都苑 (氏名)眞籠 裕大 (所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)八橋 幸子 (所属)介護老人保健施設ユ ーカリ優都苑 (氏名)藤原 優恵 (所属)特別養護老人ホームユ ーカリゆうとの杜 (氏名)北谷 暢隆
9-8 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	10月2日(木) 9:00～12:10 10月9日(木) 9:00～12:10 10月16日(木) 9:00～12:10 10月23日(木) 9:00～12:10	(所属)介護老人保健施設ユ ーカリ優都苑 (氏名)籠谷 智博 (所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)八橋 幸子 (所属)介護老人保健施設ユ ーカリ優都苑 (氏名)藤原 優恵 (所属)特別養護老人ホームユ ーカリゆうとの杜 (氏名)北谷 暢隆
9-9 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	11月4日(火) 9:00～12:10 11月11日(火) 9:00～12:10 11月18日(火) 9:00～12:10 11月25日(火) 9:00～12:10	(所属)介護老人保健施設ユ ーカリ優都苑 (氏名)籠谷 智博 (所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)八橋 幸子 (所属)介護老人保健施設ユ ーカリ優都苑 (氏名)藤原 優恵 (所属)特別養護老人ホームユ ーカリゆうとの杜 (氏名)北谷 暢隆
9-10 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	21	11月14日(金) 9:00～12:10 11月21日(金) 9:00～12:10 11月28日(金) 9:00～12:10 12月5日(金) 9:00～12:10 12月12日(金) 9:00～12:10	(所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)大澤 美穂 (所属)介護付き有料老人ホー ムミライアコート宮の杜 (氏名)八橋 幸子 (所属)介護老人保健施設ユ ーカリ優都苑 (氏名)藤原 優恵 (所属)特別養護老人ホームユ ーカリゆうとの杜 (氏名)北谷 暢隆

		12月19日(金) 9:00～12:10 1月9日(金) 9:00～12:10	
9-11 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	7月14日(月) 9:00～12:10 7月28日(月) 9:00～12:10 9月1日(月) 9:00～12:10 9月8日(月) 9:00～12:10	(所属)介護老人保健施設リハビリケア船橋 (氏名)水口 泰輔 (所属)介護付き有料老人ホームミライアコート宮の杜 (氏名)八橋 幸子 (所属)介護老人保健施設ユーカリ優都苑 (氏名)藤原 優恵 (所属)特別養護老人ホームユーカリゆうとの杜 (氏名)北谷 暢隆
9-12 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	10月30日(木) 9:00～12:10	(所属)介護老人保健施設ユーカリ優都苑 (氏名)籠谷 智博
9-13 介護過程の基礎的理解	3	1月13日(火) 9:00～12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)伊東 洋詩
9-14 総合生活支援技術演習	12	12月2日(火) 9:00～12:10 12月9日(火) 9:00～12:10 12月16日(火) 9:00～12:10 12月23日(火) 9:00～12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)伊東 洋詩 (所属)介護付き有料老人ホームミライアコート宮の杜 (氏名)八橋 幸子 (所属)介護老人保健施設ユーカリ優都苑 (氏名)藤原 優恵 (所属)特別養護老人ホームユーカリゆうとの杜 (氏名)北谷 暢隆
10-1 振り返り	2	1月16日(金) 9:00～12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)越田 裕亮
10-2 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2	1月20日(火) 9:00～12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)越田 裕亮

項目	時間数	日時	講師名等
修了試験	1	1月23日(金) 10:40～12:10	(所属)ユーカリが丘国際福祉専門学校 (氏名)越田 裕亮

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	1. 職務の理解	合計時間数	6 時間
到達目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
授業方針	介護職が働く現場、仕事の内容をわかりやすく教授する。		
項目番号・項目名	内 容	時間数	
1-1 多様なサービスの理解	<ul style="list-style-type: none"> ○介護保険サービス（居宅、施設） ○介護保険外サービス 	3	
1-2 介護職の仕事内容や働く現場の理解	<ul style="list-style-type: none"> ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス現場におけるそれぞれの仕事内容（視聴覚教材の活用、現場職員の体験談等） ○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 	3	
使用する機器・備品等	プロジェクター パソコン 視聴覚教材（DVD）等		
使用する教材	プリント、DVD 等		
備考			

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	2. 介護における尊厳の保持・自立支援	合計時間数	9時間
到達目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。		
授業方針	具体的事例等を提示し、「尊厳と自立」について気づきを促す。		
項目番号・項目名	内 容	時間数	
2-1 人権と尊厳を支える介護	(1)人権と尊厳の保持 ○個人として尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、 ○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、 ○利用者 のプライバシーの保護 (2) I C F ○介護分野における I C F (3)Q O L ○Q O Lの考え方、生活の質 (4)ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 (5)虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者 支援 (6)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援 事業	4	
2-2 自立に向けた介護	(1)自立支援 ○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○ 意欲を高める支援、○個別性／個別ケア、○重度化防止 (2)介護予防 ○介護予防の考え方	5	
使用する機器・備品等	プロジェクター， パソコン， 視聴覚機器（DVD）等		
使用する教材	プリント，DVD 等		
備考			

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	3. 介護の基本	合計時間数	6 時間
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・ 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 		
授業方針	可能な限り具体例を示し、介護職の専門性に対する理解を深める。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携	<p>(1)介護現場の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの 方向性 <p>(2)介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、 ○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、 ○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種からなるチーム <p>(3)介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、 ○サービス提供責任者、 ○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、 ○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、 ○チームケアにおける役割分担 	2	
3-2 介護職の職業倫理	<ul style="list-style-type: none"> ○専門職の倫理の意義 ○介護の倫理（介護福祉士の倫理と 介護福祉士制度等） ○介護職としての社会的責任 ○プライバシーの保護・尊重 	1	
3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント	<p>(1)介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード <p>(2)事故予防、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点 ○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） ○情報の共有 <p>(3)感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ○「感染」に対する正しい知識 	2	

3-4 介護職の安全	<p>介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント ○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの 励行、 ○手洗いの基本、○感染症対策 	1
使用する機器・備品等	プロジェクター パソコン 視聴覚教材 (DVD) 等	
使用する教材	プリント, DVD 等	
備考		

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	合計時間数	9 時間
到達目標	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・職務について、その概要のポイントを列挙できる。		
授業方針	変化の著しい制度を時代の流れとともに説明し、理解を促す。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
4-1 介護保険制度	(1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換 ○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進 (2)仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、 ○要介護認定の基準 (3)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定	3	
4-2 医療との連携とリハビリテーション	○医行為と介護、○訪問看護、○施設における看護と介護の役割・連携 ○リハビリテーションの理念	3	
4-3 障害福祉制度及びその他制度	(1)障害者福祉制度の理念 ○障害の概念、○ICF（国際生活機能分類） (2)障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業	3	
使用する機器・備品等	プロジェクター パソコン 視聴覚教材（DVD）等		
使用する教材	プリント, DVD 等		
備考			

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	5. 介護におけるコミュニケーション技術	合計時間数	6 時間
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。		
授業方針	演習をいれ、コミュニケーションのポイントを実感できるように教授する		
項目番号・項目名	内容	時間数	
5-1 介護におけるコミュニケーション	<p>(1)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ○傾聴 ○共感の応答 <p>(2)コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語コミュニケーションの特徴 <p>(3)利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の思いを把握する ○意欲低下の要因を考える ○利用者の感情に共感する ○家族の心理的理解 ○家族へのいたわりと励まし ○信頼関係の形成 ○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い <p>(4)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ○失語症に応じたコミュニケーション技術 ○構音障害に応じたコミュニケーション技術 ○認知症に応じたコミュニケーション技術 	3	
5-2 介護におけるチームのコミュニケーション	<p>(1)記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類 ○個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等） ○ヒヤリハット報告書 ○5W1H <p>(2)報告・連絡・相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ○報告の留意点 ○連絡の留意点 ○相談の留意点 <p>(3)コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会議○連絡共有の場 ○役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）○ケアカンファレンスの重要性 	3	
使用する機器・備品等	プロジェクター、パソコン、視聴覚教材（DVD）等		
使用する教材	プリント、DVD 等		
備考			

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	6. 老化の理解	合計時間数	6 時間
到達目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。		
授業方針	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例をあげ、その対応における留意点を説明し、介護において、生理学的視点を身に付けることの必要性への気づきを促す。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
6-1 老化に伴うところ とからだの変化と日常	(1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応（反射）の変化、○喪失体験 (2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、 ○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、 ○精神的機能の変化と日常生活への影響	2	
6-2 高齢者と健康	(1)高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2)高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、 ○循環器障害の危険因子と対策、 ○老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが 全面に出る、うつ病性仮性認知症）、 ○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、 ○高齢者は感染症にかかりやすい	4	
使用する機器・備品等	プロジェクター パソコン 視聴覚教材（DVD）		
使用する教材	プリント、DVD 等		
備考			

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	7. 認知症の理解	合計時間数	6 時間
到達目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。		
授業方針	具体的なケースを示し、認知症の利用者介護における原則について理解を促す。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
7-1 認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア ○認知症ケアの視点（できることに着目する）	1	
7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、 ○健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア） ○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬	2	
7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(1)認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状（B P S D）、 ○不適切なケア、○生活環境で改善 (2)認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない ○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる ○すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること ○身体を通じたコミュニケーション ○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する ○認知症の進行 に合わせたケア	2	
7-4 家族への支援	○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減(レスパイトケア)	1	
使用する機器・備品等	プロジェクター、 パソコン、 視聴覚教材（DVD）等		
使用する教材	プリント, DVD 等		
備考			

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	8. 障害の理解	合計時間数	3 時間
到達目標	障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。		
授業方針	高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの特性と介護上の留意点に対する理解を促す。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
8-1 障害の基礎的理解	(1)障害の概念と I C F ○ I C F の分類と医学的分類、○ I C F の考え方 (2)障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念	1	
8-2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	(1)身体障害 ○視覚障害、○聴覚・平衡障害、○音声・言語・咀嚼障害 ○肢体不自由、○内部障害 (2)知的障害 ○知的障害 (3)精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ○統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患 ○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥 多動性障害などの発達障害 (4)その他の心身の機能障害	1	
8-3 家族の心理、かかわり支援の理解	家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援、○介護負担の軽減	1	
使用する機器・備品等	プロジェクター パソコン 視聴覚教材（DVD）等		
使用する教材	プリント, DVD 等		
備考			

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術	合計時間数	75 時間
項目	9-1, 9-2, 9-3	項目時間数	12 時間
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 		
授業方針	介護実践に必要なこころとからだのしくみを、具体的な身体の名称や機能等を通して、理解できるよう促す。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
9-1 介護の基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ○法的根拠に基づく介護 	2	
9-2 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> ○学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ○こころの持ち方が行動に与える影響 ○からだの状態がこころに与える影響 	5	
9-3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点 	5	
使用する機器・備品等	プロジェクター、パソコン、視聴覚機器（DVD）等		
使用する教材	プリント、DVD 等		
備考			

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術	合計時間数	75 時間
項目	9-4, 9-5, 9-6	項目時間数	15 時間
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮して もらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を 習得する。 		
授業方針	根拠に基づき家事，環境，整容について考えられるように教授する。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
9-4 生活と家事	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ○生活歴 ○自立支援 ○予防的な対応 ○主体性・能動性を 引き出す ○多様な生活習慣 ○価値観	6	
9-5 快適な居住環境整備と介護	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用 具貸与	3	
9-6 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ○身じたく ○整容 行動 ○洗面の意義・効果	6	
使用する機器・備品等	講義 プロジェクター，パソコン，視聴覚機器（DVD）等 演習 ベッド，福祉用具，他		
使用する教材	プリント，DVD 等		

備考	
----	--

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術	合計時間数	75 時間
項目	9-7, 9-8	項目時間数	18 時間
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
授業方針	9-7 種々の車椅子を紹介し、自立支援の実際がわかるように教授する。 9-8 形態の異なる介護食等を紹介し、自立支援の実際を理解できるよう教授する。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
9-7 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ○利用者の自然な動きの活用 ○残存能力の活用・自立支援 ○重心・重力の働きの理解 ○ボディメカニクスの基本原理 ○移乗介助の具体的方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） ○移動介助（車いす・つえ等） ○褥瘡予防 	12	
9-8 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>食事に関連する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事をする意味 ○食事のケアに対する介護者の意識 ○低栄養の弊害 ○脱水の弊害 ○食事と姿勢 ○咀嚼・嚥下のメカニズム ○空腹感 ○満腹感 ○好み ○食事の環境整備（時間・場所等）、食事に関する福祉用具の活用と介助 <p>方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防</p>	6	
使用する機器・備品等	プロジェクター、パソコン、視聴覚教材（DVD）、ベッド、車椅子、杖、ポータブルトイレ、車いす用トイレ、口腔ケア用品、義歯、福祉用具等		
使用する教材	プリント、DVD 等		

備考	
----	--

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術	合計時間数	75 時間
項目	9-9, 9-10	項目時間数	12 時間
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
授業方針	9-9 入浴に必要なからだのしくみを具体的な名称や機能がわかるように教授する。9-10 排泄に必要なからだのしくみを具体的な名称や機能がわかるように教授する。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
9-9 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○羞恥心や遠慮への配慮 ○体調の確認 ○全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ○陰部洗浄（臥床状態での方法） ○足浴・手浴・洗髪	6	
9-10 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○排泄とは ○身体面（生理面）での意味 ○心理面での意味 ○社会的な意味 ○プライド・羞恥心 ○プライバシーの確保 ○おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害 ○排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ○便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）	6	
使用する機器・備品等	プロジェクター、パソコン、視聴覚教材（DVD）、ベッド、実習用モデル人形、物品台、浴槽各種、入浴用品、紙おむつ、尿取りパッド、排泄介助時必要物品等		
使用する教材	プリント、DVD 等		

備考	
----	--

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	9. ところとからだのしくみと生活支援技術	合計時間数	75 時間
項目	9-11, 9-12	項目時間数	6 時間
到達目標	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>		
授業方針	<p>9-11 睡眠を取り巻く環境整備、睡眠についてのからだのしくみがわかるように教授する。</p> <p>9-12 具体的な事例を通し、尊厳のある死について考えられるように教授する。</p>		
項目番号・項目名	内容	時間数	
9-11 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安眠のための介護の工夫 ○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ○安楽な姿勢・褥創予防 	4.5	
9-12 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	<p>終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○終末期ケアとは ○高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死） ○臨終が近づいたときの兆候と介護 ○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性 	1.5	
使用する機器・備品等	プロジェクター、パソコン、視聴覚教材（DVD）、ベッド、寝具等		
使用する教材	プリント、DVD 等		

備考	
----	--

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術	合計時間数	75 時間
項目	9-13, 9-14	項目時間数	12 時間
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する 		
授業方針	<p>9-13 チームの中での介護職の役割，展開する介護の位置づけが理解できるように教授する。</p> <p>9-14 事例を通して，根拠ある介護展開への理解を深めるよう教授する。</p>		
項目番号・項目名	内容	時間数	
9-13 介護過程の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> ○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ 	2	
9-14 総合生活支援技術演習	<p>（事例による展開）</p> <p>生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事例の提示 →こころとからだの力が発揮できない要因の分析 →適切な支援技術の検討 →支援技術演習 →支援技術の課題 	10	
使用する機器・備品等	ベッド，車椅子 等		
使用する教材	プリント，DVD 等		

備考	
----	--

介護職員初任者研修シラバス

カリキュラム内容

科目番号・科目名	10. 振り返り	合計時間数	4 時間
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研さんする姿勢の形成、学習課題の認識を図る。		
授業方針	キャリアマップに関する国の考えを伝え、さらなる向上への動機づけを行う。		
項目番号・項目名	内容	時間数	
10-1 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点 (利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 	2	
10-2 就業への備えと 研修修了後における継続的な研修	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的に学ぶべきこと ○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例 (O f f - J T、O J T) を紹介 	2	
使用する機器・備品等	プロジェクター, パソコン, DVD 等		
使用する教材	プリント, DVD 等		
備考			

講師一覧表

	氏名	担当科目(項目)	資格 (取得年月日)	経験 年月	専任兼 任の別
1	越田 裕亮	1-1 多様なサービスの理解 1-2 介護職の仕事内容や働く現場の理解 4-1 介護保険制度 4-3 障害福祉制度及びその他制度 10-1 振り返り 10-2 就業への備えと 研修終了後における継続的な研修 修了試験	社会福祉士 (2006年4月7日) 介護福祉士 (2008年4月9日)	21年 0月	専
2	籠谷 智博	2-1 人権と尊厳を支える介護 2-2 自立に向けた介護 9-8 食事に関連した ところとからだのしくみと自立 に向けた介護 9-9 入浴、清潔保持に 関連したところ とからだのしく みと自立に向け た介護 9-12 死にゆく人に関 連したところと からだのしくみ と終末期介護	介護福祉士 (2014年3月28日)	11年 0月	兼
3	水口 泰輔	3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携 3-2 介護職の職業倫理	介護福祉士 (2008年3月31日)	17年 0月	兼

		<p>3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <p>3-4 介護職の安全</p> <p>9-11 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>			
4	眞籠 裕大	<p>5-1 介護におけるコミュニケーション</p> <p>5-2 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>7-1 認知症を取り巻く状況</p> <p>7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>7-4 家族への支援</p> <p>9-7 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>介護福祉士 2015年5月20日</p>	<p>13年 0月</p>	兼
5	澤村 恵子	<p>6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常</p> <p>6-2 高齢者と健康</p> <p>7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p> <p>8-1 障害の基礎的理解</p> <p>8-2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、関わり支援等の基礎的知識</p> <p>8-3 家族の心理、関わり支援の理解</p>	<p>看護師 (1981年5月27日)</p>	<p>44年 0月</p>	専

6	大澤 美穂	<p>9-1 介護の基本的な考え方</p> <p>9-2 介護に関するところのしくみの基礎的理解</p> <p>9-3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p> <p>9-4 生活と家事</p> <p>9-5 快適な居住環境整備と介護</p> <p>9-10 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	介護福祉士 (2019年4月5日)	5年 11月	兼
7	伊東 洋詩	<p>9-6 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>9-13 介護過程の基礎的理解</p> <p>9-14 総合生活支援技術演習</p>	介護福祉士 (2004年3月11日)	21年 1月	専
8	石田 修治	4-2 医療との連携とリハビリテーション	理学療法士 (2008年5月1日)	17年 0月	兼
9	八橋 幸子	<p>9-7 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>9-8 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>9-9 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>9-10 排泄に関連したところとからだ</p>	介護福祉士 (2006年3月1日)	19年 1月	兼

		<p>のしくみと自立に向けた介護</p> <p>9-11 睡眠に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護</p> <p>9-14 総合生活支援技 術演習</p>			
10	藤原 優恵	<p>9-7 移動・移乗に関連 したこころとか らだのしくみと 自立に向けた介 護</p> <p>9-8 食事に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護</p> <p>9-9 入浴、清潔保持に 関連したこころ とからだのしく みと自立に向け た介護</p> <p>9-10 排泄に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護</p> <p>9-11 睡眠に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護</p> <p>9-14 総合生活支援技 術演習</p>	介護福祉士 (2008年3月31日)	17年 1月	兼
11	北谷 暢隆	<p>9-7 移動・移乗に関連 したこころとか らだのしくみと 自立に向けた介 護</p> <p>9-8 食事に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護</p> <p>9-9 入浴、清潔保持に</p>	介護福祉士 (2018年4月6日)	7年 1月	兼

		<p>関連したところ とからだのしく みと自立に向け た介護</p> <p>9-10 排泄に関連した ところとからだ のしくみと自立 に向けた介護</p> <p>9-11 睡眠に関連した ところとからだ のしくみと自立 に向けた介護</p> <p>9-14 総合生活支援技 術演習</p>			
12			()		専・兼